

5月CPまた一段高観測 原油高騰とイラン産LPガス減少、タルガ社出荷基地で事故

30日の5月CP発表を前にLPガスの主要国際市場は一段と上昇している。大手輸入元売筋・商社筋からのヒアリングによると、25日現在、中東のCP先物市況は、プロパンが530ドル台前半、ブタンが540ドル台前半となった。また、極東CFR市況は、プロパン590ドル、ブタン600ドル程度まで上昇した。モントベルビュー市況もプロパンが68^{キログラム}／^{ガロン}＝354ドルと第4週前半に比べて20ドル上げとなった。同ブタンも355ドルと数ドルの上げ。

原油高騰 WTI 66ドル台 米国イラン制裁緩和停止

各市場での一段高の背景となっているのが、原油市況の高騰だ。22日の米国政府の日本・韓国・中国・インドなど8カ国に猶予していた「イラン原油輸入制裁措置緩和の停止」の発表により、23日のWTI市況は66.30ドル／^{バレル}、北海ブレントは74.51ドルと6カ月ぶりの高値となった。24、25日とこの両油種は微落しているものの中東原油のオマーンとドバイは25日に年初来最高値の74.60ドル、74.49ドルを記録した。これを受けてアラビアン・ライト(A・L)も75.75ドルに上昇した。4月1～25日現在の平均原油価格は、WTIが63.92ドルで3月平均比5.83ドル、同じくブレントが71.51ドルで同4.56ドル、A・Lが72.06ドルで同4.41ドルのそれぞれ大幅な上げとなっている。

イランの原油輸出量はこの米国の制裁緩和措置の停止でピークの240万^{バレル}／日から5月には100万^{バレル}／日に落ち込むとみられる。米国の経済制裁と国内経済の大混乱のため、ベネズエラの原油生産量もピークの270万^{バレル}／日から3月には78～82万^{バレル}／日に激減している。3月には102万^{バレル}／日と100万^{バレル}を超えたリビアだが、暫定政府が置かれている首都トリポリを「反政府国民軍」が包囲した。総攻撃が始まると原油生産・輸出は急減すること必至だ。

OPECの原油減産率は3月153%。サウジの大減産(3月980万^{バレル}／日前後)が減産を牽引している。OPEC減産と地政学リスクが重なり、原油は昨年10月以来の高値が今後も続く可能性が大だ。

A・L熱量比維持してもP535ドル

この原油高騰がLPガス市況にも影響しており、仮にサウジアラムコが対A・L熱量等価比で5月CPを前月並みの90～93%程度に据え置くとしても、プロパンCPは530ドル台前半～半ばとなる。ただ、サウジアラムコの場合、CPには発表直近のLPガス市況を反映させることが上昇局面では極めて多いのが過去の事例。あと数日の情勢展開次第では「プロパン540ドルもありうる」(大手輸入元売輸入担当幹部)。

タルガ社輸出ターミナルで積み停止 USGC～極東スポットフレート 100ドルに

とにかくCP上げ要因しかないのだ。前回伝えてスポットフレートは、AG～JPNが67ドルと高値張り付き、USGC～極東はついに100ドルとなった。タルガ社のガレナパーク輸出ターミナルであろうことかローディングアームが破損したとの情報。輸入元売もまだ詳細は不明とのことだが、「積みの遅れが発生している」。ガレナパークの輸出出荷能力は約45万トン/月。VLGC10杯だ。これでまた滞船だ。

極東市場では米国産プロパンカーゴの不足が目立っているのは既報のとおり。5月後半入着物は「5月CPプラス60ドル」にもなっている。米国のイラン制裁措置緩和停止で、中国のイラン産LPガス輸入もますます難しくなる。中国の求める中東産プロパンカーゴは「5月CPプラス70ドル台」。プレミアムに更にプレミアムが付加される状況。こんなチャンスはサウジアラムコが見逃すわけではない。